

# たすのかな ひくのかな

竹原市立中通小学校  
指導者 藏本 利恵

## 1 単元のねらい

学	習	内	容
場面に即して，適切に演算を決定したり，ある数量を他の数量に置き換えて解いたりする。			

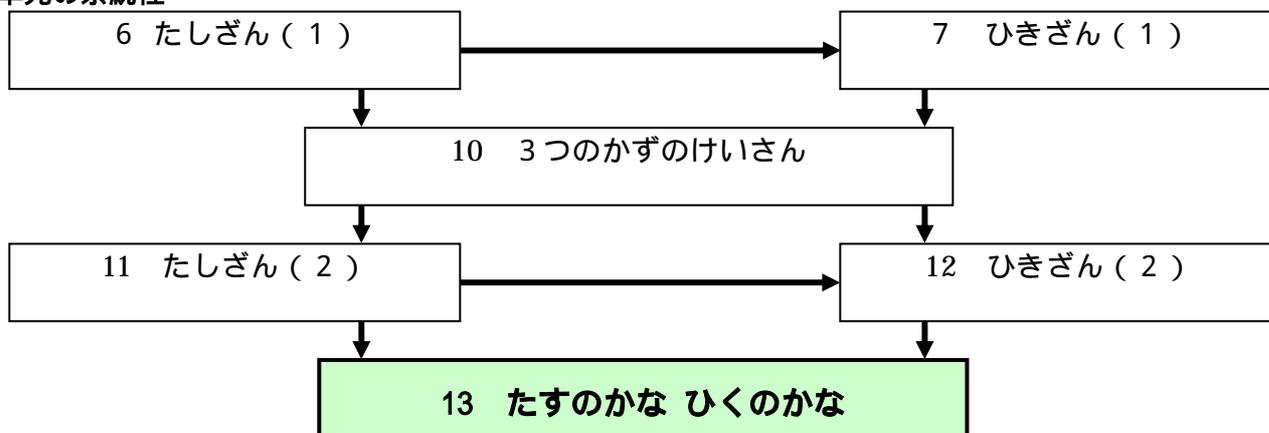
**指導方法の工夫改善**

同じ場でたし算の問題とひき算の問題を混ぜて取り上げることで，加法及び減法の意味の理解を深める。  
生活場面での適用題を解いたり，問題づくりをしたりする。  
習熟の程度に応じた指導を取入れる。

**コミュニケーション能力の育成**

自分の考えを，操作で表したり，図や文にかいて表現したりすることができる。  
「わからない」「おかしい」と考えた」というように考えや疑問を言葉で表現できる。

## 2 単元の系統性



## 3 児童の実態(24名中)

**プレテストの結果〔内容：たしざん(2)〕**

くり上がりのたし算の計算問題  
正解率 80%以上…… 21人  
正解率 80%未満…… 3人

合併の文章題  
正解…… 21人， 式のみ正解…… 3人

増加の文章題  
正解…… 18人， 式のみ正解…… 6人

**プレテストの結果〔内容：ひきざん(2)〕**

くり下がりのひき算の計算問題  
正解率 80%以上…… 19人  
正解率 80%未満…… 5人

求残の文章題  
正解…… 21人， 式のみ正解…… 2人  
不正解…… 1人

求差の文章題  
正解…… 10人， 式のみ正解…… 7人  
答えのみ正解…… 2人， 不正解…… 5人

#### 4 単元の目標と評価規準

	ア．算数への関心・意欲・態度	イ．数学的な考え方	ウ．数量や図形についての表現・処理	エ．数量や図形についての知識・理解
単元目標	計算について関心をもち、場面に即して、どんな計算になるかを考えようとする。	場面に即して、演算を決定したり、ある数量を他の数量に置き換えて考えることができる。	場面に即して、加減の演算を決定し、立式して答えを求めることができる。	加減の用いられる場面やある数量を他の数量に置き換えて計算することを理解している。
評価規準	計算について関心をもち、場面に即して、どんな計算になるかを考えようとする。	場面に即して、演算を決定する。 ある数量を他の数量に置き換えて考えることができる。	場面に即して、加減の演算を決定し、立式して答えを求めることができる。	加減の用いられる場面を理解している。 ある数量を他の数量に置き換えて計算することを理解している。

#### 5 指導計画（全5時間）

学習内容	学習形態	時数	評価規準
たしざんやひきざんの場面を捉えて、加減の演算決定をし、問題を解く。（本時1/2）	一斉	1	イー
	ミニ習熟	1	エー
雪遊びの絵を基に、加減の問題作りをする。	一斉 ミニ習熟	1	アー ウー
ある数量を他の数量に置き換えて演算決定をし、問題を解く。	一斉	1	イー
	ミニ習熟	1	エー

#### 6 本時のねらい

内学  
容習

【ねらい】 たし算やひき算の場面をとらえて、加減の演算決定をすることができる。（考）

コミュニケーション  
能力の育成

【ねらい】 数図ブロックの操作や図を手がかりにして、自分の考えを書いて表現することができる。

工指  
夫導  
方方  
改改  
善善  
のの

【ねらい】 「ふかめる」場面にミニ習熟を取り入れ、個に応じた支援を行う。本時の学習内容が理解できた児童は自分のペースでプリントの文章題を解いたり、問題作りをしたりする。支援の必要な児童は1カ所に集めて教師が支援しながら、類題を解く。

#### 7 準備物

**教師** 情景図，キャラクターの絵（掲示用），ワークシート，適用題プリント  
数図ブロック（掲示用，個別指導用）

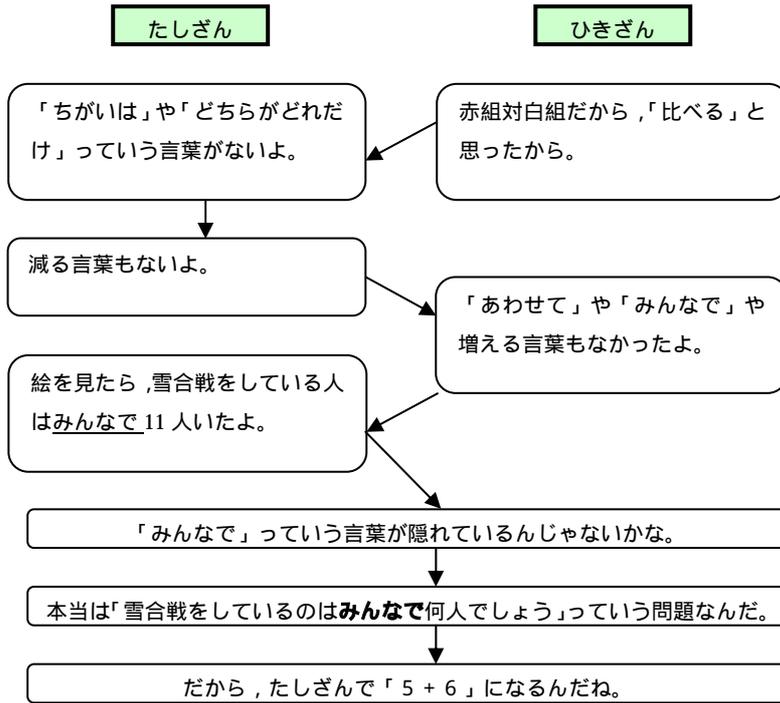
**児童** 数図ブロック

8 指導過程

学習活動	指導上の留意点 …評価, [ ]…評価方法
<p>つかむ</p> <p>1 問題場面を理解し, 解決の見通しをもつ。 情景図を見て, 問題場面を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">あかぐみ 5 にん, しろぐみ 6 にんに わかれて ゆきがっせんをしています。</div> <p>尋ねる文を予想する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ゆきがっせんを しているのは なんにんでしょう。</div> <p>問題の中のわかっている数に赤丸, 聞かれていることに青線を引く。 赤組, 白組の子どもの数を数図ブロックで表す。 たし算になるか, ひき算になるか考えて挙手する。 式を立てて, 発表する。</p> <p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">どうして そのしきになるのか かんがえましょう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情景図を提示し, 気づきを発表させることにより, 場面の様子を把握させる。</li> <li>・ 予想を言わせてから問題文を提示する。</li> <li>・ 机間指導をしながら, 全員が記入できているか確認する。</li> <li>・ 見通しを立てることにより, 課題意識をはっきりさせる。</li> <li>・ 出てきた式を板書する。</li> <li>・ 学習課題を板書する。</li> </ul>
<p>さぐる</p> <p>3 自力解決をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0; background-color: #e0ffe0;">予想される児童の反応</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00; width: 45%;">5 + 6, 6 + 5</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00; width: 45%;">6 - 5, 5 - 6</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">あか5人としろ6人をあわせる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">あか しろ 白が一つ多い。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">あかぐみ          しろぐみ  みんなで11人</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">「あわせて」「ぜんぶで」「ふえると」というような言葉がない。</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; width: 50%;">きょうかしょのえを見たら, ゆきがっせんをしているひとが11人いたから。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; width: 50%;">ゆきがっせんをしているひとは, あかぐみとしろぐみをあわせるから, 5 + 6で11.</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員がワークシートに式がかけられるように時間設定をする。</li> <li>・ つまずいている児童への予想される支援。 問題を正しく読み取っているか自分の言葉で説明させる。 数図ブロックを操作させる。行った操作はたし算かひき算か考えさせる。 判断した理由を言わせる。 かき方でつまずいている場合は, 図や絵の入ったヒントカードを与える。 操作や考えを言葉で説明させて, その通りかかせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">自分なりの理由をかき表すことができたか。【考】 〔児童観察, ワークシート〕</div>

## ねりあう

### 4 演算決定の理由について話し合う。



### 5 $5 + 6$ のたし算になり、答えは11であることを確かめる。

- 一部の児童だけの発言にならないよう「どこがわからなかった」「ここまでわからなかった」といった発表もさせる。
- 全員が練りあいの場に参加できるように、大切な部分は復唱さたり、同じ操作をさせたりする。
- 「 $5 - 6$ 」などの式が出てきたときには理由に簡単に触れて間違いを正す。
- 「 $6 - 5$ 」が出てこなかったときは、必要に応じて教師から出して、ゆさぶりをかける。
- 「みんなで」（「ぜんぶで」「あわせて」）と書いた吹き出しを用意しておき、問題文のどこに入るか考えさせる。

## ふかめる

### 6 他の文章題を解く。

#### 1 問目は全員一斉にする。

あかい ちゅーりっぷが 8本、  
きいろい ちゅーりっぷが 7本あります。  
ちゅーりっぷは  本あります。

#### 2 問目以降はミニ習熟の形で行う。

##### ミニ習熟

1問目の様子を見て、つまづいている児童を集めて、支援する。理解ができるようであれば、自分の席へ戻り、自分のペースでプリントをする。自分でできる児童は、2枚目以降のプリントは自分で答え合わせをし、自分のペースで次のプリントへ進む。

- 隠れている言葉を見つけさせる。
- 必要に応じて数図ブロックで操作をしながら考えさせる。
- 1問目でつまづいた児童には、一緒に操作をしたり、ヒントの入ったプリントを渡したりして支援する。
- できた児童は自分で答え合わせをして次のプリントへ進むが、つまづいたときには教師のところへ来させる。

場面に即して、演算を決定することができたか。【考】  
〔児童観察、ワークシート〕

## まとめる

### 7 本時の学習をふり返る。

- 今日の学習でわかったことをふり返らせる。